

教職大学院 NEWS

vol. 61

2026. 6月発行

三重大学大学院教育学研究科
教職実践高度化専攻

10期生の皆さんへ：学びを重ね、実践をひらく時間に

専攻長 菊池 紀彦



10期生みなさん、ご入学おめでとうございます。皆さんを教職大学院に迎えることができ、大変嬉しく思います。教職大学院での学びは、単に新しい知識や方法を身につけるだけでなく、これまでの実践や自らの考えを問い直し、より深く、より確かなものへと育てていく営みです。現職教員学生の皆さんが教育現場で培ってきた経験と、学部新卒学生の皆さんが抱く新鮮な問いや意欲が交わることで、互いの学びはさらに豊かなものになります。教育現場の課題がますます複雑化する今だからこそ、学び続ける教師として、自らの実践や将来の教師像を広げ、深めていってください。皆さんの一つ一つの学びが、これからの教育を支える力となることを期待しています。私たち教職員も、皆さんの歩みに寄り添い、全力で支えてまいります。



10期生紹介

上岡 菜穂（伊賀市立城東中学校）

教職大学院での授業はどれも手応えのある授業ばかりです。その授業で学んだ新たな視点から、これまで走り抜けてきた実践を振り返ると、それらが今までとは違う輝き方をしていることに気づきます。私はこれから、児童生徒はもちろん教職員も生き生きと過ごせる学校づくりについて学んでいきたいです。

式井 由紀子（いなべ市立藤原中学校）

教師の学び続ける姿勢を生み、かつ同僚性も高められるような校内研修の体制や、小中が連携した校区研究の在り方について学びたいと思っています。院での学びは、まさに「理論と実践の往還」！これまでの現場での実践について、理論によって理解や整理ができたり、解決の糸口が見つかったりすることに面白さを感じています。

大八木 梨湖（小学校志望）

インプロを取り入れた学級経営について、実践も取り入れながら学びたいです。大学院では現職学生の方から現場のリアルな声も聞くことができ、学部時代にはそのような機会はあまりなかったので、刺激を受けています。2年間で同期、先輩、後輩、先生方などと関わるなかで様々な考えに触れ、日々学んで成長していきたいです。

諏訪 帆香（小学校志望）

児童の学習意欲が高まるような授業についての学びを深め、また、教師としての自分の軸を育てたいと思っています。他の院生の方の思考の深さに圧倒されながらも、周りの方の優しさに支えられ、充実した学びの日々を過ごしています。学び合える環境の中で、自分の納得を大事にした学びをしていきたいです。

中島 由香莉（中学校英語志望）

『多感な時期にあたる中学生に寄り添える教員になりたい』と思い、中学校教員を志望しました。しかし、「寄り添う」って具体的にどういうことだろうと考えたときに、自分にはまだ学びが足りないと感じ、教職大学院へ進学することにしました。志の高い素敵な仲間と共に、この2年間、思う存分学びたいと思います。

灘 遙大（小学校志望）

教職大学院では、教室内の環境などといった学級経営や児童生徒への接し方、教育方法などの実践的なことを学びたいと思い、進学しました。実際に進学して、現職の方々や学卒の同期・先輩たちとの話からも教授の授業からも勉強になることがわかりです。2年間を通してさらに学びを深めていきたいと思っています。

宮本 菜々子（高校理科志望）

私は他大学の農学部から来たため、教育に関する知識が不足しており不安がありました。しかし、既にこの2か月で10期の皆さんや先輩方、先生方から多くのことを学び、とても勉強になっています。この2年間で教育者・研究者としての視点を身に付け、自信につなげていきたいと思っています。

伊藤 真理（桑名市立光陵中学校）

中学校国語科における、説明的文章の研究をしています。子どもたちが生き生きと活動できる授業展開を開発し、桑名市の国語科教育に貢献したいです。この2ヶ月で、電車で通学することにすっかり慣れ、自然豊かな環境で学べることに心地よさを感じています。三重大学は母校でもあるので、懐かしさを感じながら毎日楽しく学んでいます。

稲垣 菜穂（高校英語志望）

教職大学院では、教育に関する知識を深め、英語教育の実践力を鍛えることに加え、教師の知識の発達について研究しています。入学してからは、改めて基礎的な知識を学び直したり、授業や発表、議論を繰り返しつつ、自身の考えを深めたりしています。この環境に感謝し、いっそう謙虚に、2年間精進します。

上村 陽子（松阪市立徳和小学校）

教職大学院には外国にルーツのある児童の教育について学んでいるところです。理論的な背景を知ることによって一つ一つの言葉の重みを感じます。知りたいことを先生方に質問をするとたくさんの本と論文を紹介されます。学べば学ぶほど分からないことがさらに増えますが、この機会を現場に活かせるようにしていきたいです。

勝田 将（四日市市立富田中学校）

教職大学院で学ぶ機会をいただいたことに感謝しております。日々授業の課題に追われ、指導教員の先生にたくさんご教授していただき、充実した貴重な時間を過ごしております。様々な理論を学ぶ時、現場で出会った生徒のことをいつも思い出しながら、実践を振り返っています。教職大学院で学ぶ魅力は、まさに「理論と実践の往還」であると改めて感じる瞬間です。

加藤 由真（中学校国語志望）

教職大学院では、学部時代にはあまり学べなかった教育現場の具体的な実践に触れる機会が多く、充実した日々を過ごしています。2年間を通して、先輩や同期との学び合いを大切にしながら専門性を高め、学び続ける教師として成長し、自信を持って教壇に立てよう精進して参ります。

倉田 美雪（高校理科志望）

教職大学院の実習で、授業や生徒指導の経験を積みたいと思います。2ヶ月間で、学部の教育学部生とともに基礎的な理科の力をつけ、教育学について学んでいます。教職大学院に入学してとてもよかったと感じています。

竹内 愛海（中学校社会志望）

教職大学院に入学して2ヶ月が経ちました。学部新卒学生と現職教員学生が共に学ぶ環境のなかで、理論と実践を往還しながら多くの学びを得ています。授業後も活発な議論が交わされ、多様な視点に触れられることに日々楽しさを感じています。私は今後、人権学習としての社会科の可能性について、研究を深めていきたいです。

竹平 悠人（中学校数学志望）

これまでの大学での学びに加え、より一層自己の教育観と向き合いながら、教科内容に関する理解を更に深めるために進学しました。教職大学院のカリキュラムを通じて得られる学びはもちろん、ここでの「えにし」を最大限に生かして、三重の教育に焦点を当てながらこれから取り組んでいきます。

中垣 尚子（四日市市立南中学校）

入学式で聞いた「大学院は知を生み出すところ」という言葉が印象に残っています。発表などのアウトプットを通して学ぶ中で、知識を置き換えたり結び付けたりすることを意識するようになりました。また、仲間から多くの刺激を受けており、実践と理論を往還しながら、英語教育を通した多文化共生について探究を深めていきたいと考えています。

那須 海太（高校地理歴史志望）

私は、高校地理歴史科の教員を目指しています。学部時代より、歴史を教える意義とは何か、そこにおける思考力とは何かを考え、もう少し教材研究をしてみたいと思い、教職大学院に入学しました。まだ確固たる研究テーマも定まっていますが、いずれ決定した折には、励みたいと思います。

野 圭一郎（高校英語志望）

私は、人文学部出身であるため、学部で専攻していた言語学の知見を高校の英語教育にどのように生かせるのかということを研究したいと思い、教職大学院に進学しました。大学院では、これまで積み上げてきた英語に対する知識を授業に落とし込むにはどのような形態がもっとも有効なのかなどについて学んでいます。

藤原 瑤（小学校志望）

教職大学院では、先生方をはじめ、現職の方や様々な専門性をもつ学卒の仲間達と学ぶことができる環境にあります。そして、議論を通して、新たな気づきや疑問が次々と生まれ、日々探求したいことが広がっていくことに面白さを感じています。このような「よいもやもや」を大切にしながら、これからも学び続けていきたいです。

松月 大輔（中学校美術志望）

大学院では美術教育学を専攻しております。思春期の描画表現の危機や美術に対する苦手意識やつまずきに興味があります。美術に関係するものに限らず、たくさん本を買い、たくさん本を読み、大学院の仲間と議論する充実した毎日過ごしています。

村上 理奈（高校家庭志望）

授業力を高め、家庭科の専門性を高めたいと思い、教職大学院に入学しました。入学から2か月、異なる校種・教科の先生方との議論や実践的な学びを通じて、教科を超えた視点の大切さを実感しています。この2年間で、自分の授業を一層深めたいです！

山添 将也（津市立雲出小学校）

教職大学院で学ぶことについて、快く送り出してくださった校長先生をはじめ同僚の先生方に本当に感謝しています。教職大学院で出会ったみなさんと多くのことを話し合い、みなさんから学びたいです。たくさんの方々の支えのおかげで充実した毎日過ごしています。これからよろしくお願いします。

前田 淳司（稲葉特別支援学校）

教職大学院に来て2か月が経ちましたが、来てよかった、と感じます。教員をしている中で感じていた様々な問いに対して、答えるための知識を深められることに喜びを感じます。尊敬する指導教官、いっしょに意欲的に学ぼうとする同期の方々と共に、知識を深めていきたいと思います。

松野 みつ子（津工業高等学校）

生きづらさを抱える生徒の支援に関心があり、発達障害や思春期のメンタルヘルスを学ぶため教職大学院に進学しました。この2か月の学びを通して自分の無知を自覚し、仲間と対話を重ねる中で、自分の視野が少しずつ広がっていくのを実感しています。この環境に感謝をし、今後も多くを吸収して実りある2年間にしたいです。

米田 さおり（稲葉特別支援学校）

私は、知的障がいを持つ子どもたちの特別支援学校に所属しています。子どもたちとのかかわりの中で、うまくいかないことや疑問に思うことが多々ありました。このため、特別支援教育について改めて学び、子どもたちの支援に活かしたら良いと思っています。